(廿六日夕刊)
磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　特所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　逆沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

中秋夜話(四)

辯護士　[illegible]里文平

○

或る朝、私の隣人で商家の若旦那であるA君が突然やつて來た。年齢は二十六才

A「其後ご健康の方は如何ですか。」

私「お影で最うすつかり快癒しました。」

A「ときに私は、此選擧に誰を投票してよいか判らないでゐる。どの候補者がよいでせう。」

私「あなたの信ずる人を選べばよい。」

A「それが判らないので親父に相談しても、親父は繰り者、俺の意中の人は決まつてゐるが、貴様に強ひはせぬ。貴様は貴様で判別して決めろ。とかう云ふのです。考へて見たが、やつ張り見當がつかない。いつそ籤にしやうかと考へてゐるのです。」

私「演説會へ行つて、話をよく聽いた上で決めればよい。」

A「私の身体は多忙ですから夜も晝も家を留られないので、實はまだ一度も演説を聽きに行つたことがないです。」

私「それでは斯うし給へ。要するに、あなたの好きな人を選むことだ。それには次の順序で決めて行つたらよいでせう。」

○

(一) 先づあなたの好きな黨派を決めること。若し黨派に好き嫌ひがないなら撰擇は更に自由である。

(二) 次に誠意手腕の人かどうかを評判や噂さで調べて見ること。是は撰擇の中心で最も重要な條件である。手腕あれども熱足らず、熱はあれども誠意なしで、兎角世間は思ふやうにゆかぬ。口ばかりで少しも仕事の爲でない人、其反對に默つてゐるやうではあるがこつ〜と仕事を仕上げてゆく新人、色々である。然し乍ら一概に手腕力量といつても、その背景の力に俟つて動かねばならぬこともある。誠心誠意と力んでも、周圍環境の狀勢に左右さるゝ場合も尠なくはあるまい。だから此條件とても絶對的のものとは言へない　先づ相當の人物を出すことだ。

(三) 新聞記事やビラや手紙で、其人の政治的意見や主義主張の可否を判斷すること。

(四) 候補者から依頼狀其他の筆蹟文章に依つて其の性情風格を推測すること。

是は決して馬鹿に出來ないと思ふ。丸で愛嬌のつきるやうな文句を並べる人もあるが、一讀これは感服するやうな名文を投げ付ける人もある。文が巧みに出來てるとぴつたりと自己の心へ喰ひ入つてくるやうで、讀み了つて思はず善哉と叫ぶやうなことになる。是が共鳴というのであらう。極めてデリケートな事柄ではあるが、デリケートなだけに印象は深い。

(五) 最後に諸種の宣傳紙上にある候補者の寫眞肖像に依て其骨相風采を吟味すること。

是は必ずしも風采の立派な人を撰ぶ爲ではない。人は好きずきである。自己の眼底に映ずる印象如何に依て、會心の人を求めんとするのである

○

―棄權者が多いであらう―

此の際は今次の總選擧に於ける憂慮の一つとして可なりに高い。恐らく此憂慮の點は從前に比するに非常の率を以て、數字の上に事實となつて現はれるであらう。そして此點が新法に對する非難ノ第一聲として、その改訂補正の要を叫ばるゝに至るであらうことを信ずる。

從來とても棄權者は多かつた。或は選擧權を以て單なる權利關係とだけの狹い解釋を下してる者は、投票するも棄權するも一に有權者の自由であるとして棄權した。或は其日〜を手から口へと、身体を資本のしがない生活に在る人々は經濟上の打算から止むなく棄權するものもあつた。

今次の選擧には之等の棄權者が更に其の數を增すであらう。それに會社事務の無理々々驅り出されて投票をして來た無定見の有權者に至つては、こんどは其義理もないので正々堂々と棄權するに至るであらうと思ふ。

○

扨て然らば、此有權者の投票の棄權を阻止せんとするには、果して如何にしたらよいか。

惟ふに今は過渡期である。先づ積極的には、有權者各自の選擧權に對する權利思想を打破補匡するに義務觀念を以てし、かの納税義務のそれの如く、選擧權の行使は國家的重要の義務であるとしての國民の強き自覺を促すに努め、消極的には棄權に關する條項規定を設け、その理由なき投票の棄權に對しては相當の處罰をなすことにしてはどうかと思ふ。

○

選擧は水ものである。蓋を明けて見ぬ中は結果は判らぬ。然し、今度ほど選擧氣分のせぬ選擧もないが、また今度ほど結果の待たれる選擧も尠ないと思ふ(了)

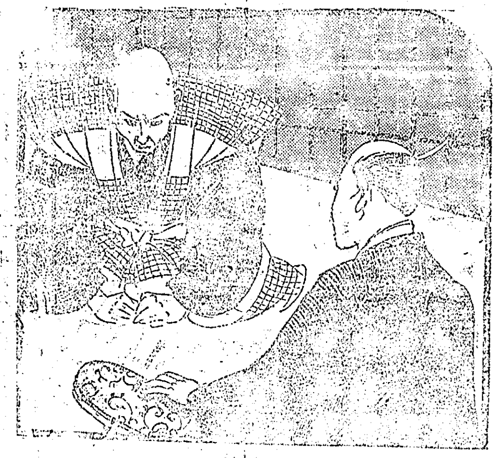
※吉凶の暦※
明日　新暦九月廿七日　舊暦八月二日

△一白　何事も先走らず長者の後より行けば引立てらる△二黒　氣の落付かざる日人の誘ひに乘るは危險なり△三碧　突風の中を飛行する如き日油斷する事なかれ△四綠　古き世話事よりもつれを生じ來る日萬般注意△五黄　運氣平穩なり但し新規の商事は見合すべし△六白　宗移りの仕度吉日新しき事は凡て見合すべし△七赤　出ること少くし入る事の多き大吉日なり△八白　旅行を行ふには尤もよき日旅行建築も無事△九紫　依頼心を去りて自主の氣を尊ぶべき日

講談　(147)

高橋掬太郎創作　布施半八郎挿畫

責任の謹慎



神部清左工門早間重太夫川越軍治の三人は夜の明けるを待つて登城し昌康に昨夜の事件を言上した

「ナニ千世姫が曲者に奪ひ去られたとなそりや一大事ぢや飽くまでも我が家に仇をなす怪人奴草の根を分け土の底を掘つて探し出し重き刑を加へよ。」

と昌康は憤怒の聲を絞つて命じた。

「はゝッかしこまりました」

と三人は平伏したが清左エ門は顔をあげて

「主君」

と恐る〜呼んだ

「何んぢや?」

「昨夜の事件の責任として我々は切腹致さねばならぬ次第にございまするが如何いたしませうや」

と清左エ門は又も態と云ふのであつた。

「イヤナニ、切腹には及ばぬ。たゞ曲者の行方を一刻も早く探し出し姫を取り戻すがよからう」

姫を盗み出させた當人の昌康であるがこれ清左工門はどうでも重太夫や軍治に切腹させられては大變とあわてゝ云つた。

「では何のお咎めもござりませぬか有難く存じまする

と三人は謝した

「うむ別に咎めはせぬ盗まれる方には油斷のあるものだからそのことは何も咎めずともよいがどうぢや上席家老として清左工門其方が一人にて責任を負ひ自發的に當分の間謹慎して居つてはどうぢや」

昌康は清左工門に相談ずるやうに云つた。

清左工門を封じておけば萬事について都合がよかつた。曲者を探し出せと嚴命するのはよいが若しか何かの證據が上つて曲者の目星をつけられたら困る、それより清左エ門を封じこんでおいた方が安全であらうと考へたのであつた

清左エ門は早くもその意を讀んだ。若し責任者を罰するとせば總奉行の川越軍治かまた清左エ門を責任者とするなら重太夫も同じくなくてはならぬ。それを清左エ門だけに責任を負はせやうといふのであるから不公平も甚しい。

しかし假りにも主君の言であれば背けない、殊に自發的に謹慎したがよからうと相談的に云はれたのであるから拒むことが出來なかつた。

「仰せの言承知仕りました

と清左エ門は責任を一人で負ふことを承知した

「うむ承知してくれるか辱けない。その代り其方が謹慎中に重太夫軍治を勵まして曲者を探し出してやらう心配すな。」

昌康は清左エ門を慰めるやうに云つたがこれはちやんと重太夫と打合せておいた事であつた

「神部氏貴殿に許り責任を負はすのは本意でないが主君の上意であるに依つて我慢をして頂きたい。その代り川越氏と二人でたとへ草の根をわけてもきつと曲者を探し出してお目にかけよう」

と重太夫が云つた

「何分宜しくお頼み申す。拙者も陰ながら速かに怪人の捕はるゝのをお祈り申さう」

と神部清左工門は昌康の御前を退つた。

彼は謹慎することは[illegible]はなかつたがたゞ姫の行方が氣になつて心配でたまらなかつた。

曲者の一人は天狗の假面を冠つてゐたといふ。若し昨夜松並木で會ふたあの怪人ならよいが若しや惡人輩の仕業であつたなら姫の運命はどうなるであらうと思ふと氣が氣でなかつた

外科、耳鼻咽喉科
內科、泌尿器科
X光線科
外科
赤心堂病院
平町字田町　電話四七五

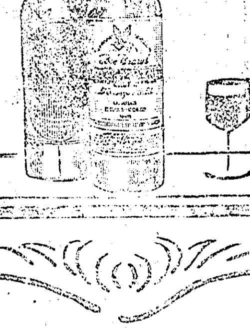
平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

平町田町
高久病院
電話五一三番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

夜間診療
胃腸　內科　十二指腸虫病　專門　內科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
平南町　松村病院　電話七〇一

蜂ブドー酒
團欒への一杯！
賓客への一杯！
健康への一杯！
品質本位
美味＝最も芳醇にして婦人の嗜好に適し
滋養＝最も豐富にして氣力と體力を增す



發賣元　近藤利兵衛商店

秋冬物品揃
丸帶　江戸褄　小紋錦紗　大島紬　銘仙　羽二重友仙　肩裏類
三井吳服店
電話三十八番

內科　小兒科　皮膚科　花柳科
平町舊城跡
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話一〇三番

鐵筋コンクリート
鐵骨組立
和洋建築
文化式建築
設計監督
土木、建築、請負業
合資會社　丸三森組
社長　大森鎮平
東京日本橋　電話茅場町二五二〇番

秋！
活躍のシーズン來る
勞働勤務に運動に
指示正確なる
時計を
蓄音器とレコードの
御用は……
定評ある當店へ
TRADE MARK NIPPONOPHONE
平町四丁目
會田時計店
電話三六三

果して如何に轉ぶか 當落の運定め

今夜午後十二時迄に決る 各派候補の得票數

石城郡に於ける縣會議員選擧は去る三日選擧に對する縣の告示を見て以來十一名の各派候補者必死の猛運動をつづけ或は文書戰より言論戰、更に白兵戰に移り其の間約三旬に至る血の出る樣な努力を拂ひ來たり昨二十五日午前七時より各町村に夫れ／＼

投票を執 行し、今二十六日、平町舊郡會議室、小川村小學校、植田小學校の三ケ所に平、植田は午前八時より小川は午後二時より開票を執行した、結果別表記載以外のは本項締切りまでに不判明で當落が果して何人なるかは容易に判明せないが今次選擧は普選初回の選擧にして選擧人の比較的無智識なのに附け込み或る一部は可成り買收

その他の 手段によつて投票を搔き集めた形跡あるので平署は猛烈に違反事件の摘發に努力してゐる

今夜十二時頃 選擧會終了

石城全郡の

平、植田、小川の三ケ所で開票した各町村の投票は午後八時より石城郡選擧會場たる舊郡會議室に集め確定する筈であるが選擧會が終了するのは午後十二時乃至一時頃になるらしいと

石城郡縣會議員選擧各町村投票分野一覽表

午後五時迄に開票の分

町村名	有權者數	棄權	失格	投票數	井上	山崎	鈴木	古川	若松	野崎	鷲	青沼	田子	廣瀬	山代
平	三七六五	四三九	七三	三二五三	九四三	三五五	三二七	一六	一四六	八八六	一〇四	三四四	二六	一五	〇
飯野	六〇七	四六	一〇	五五一	一二	四三八	三四	一	二五	三八	〇	二	〇	〇	〇
鹿島	三六〇	三六	八	三一六											
江名	九五九	一〇七	一四	八三八											
豊間	六五七	一二九	二一	五〇七											
高久	四九一	四三	一五	四三四											
夏井	五〇七	四六	二一	四四〇											
神谷	六四五	八一	一八	五四一											
草野	八一八	九四	一八	七〇六											
大浦	七八四	七三	二五	六八五	一〇	三七八	三〇	八四	一〇六	六	二七	二	二六	〇	一〇
四倉	一二三六	二二五	五八	九五三											
大野	八四五	一二六	八八	六三一											
平窪	六一四	五七	一四	五四三											
赤井	一一八二	一〇一	五〇	一〇三一											
小川	八〇一	七九	四二	六八五											
川前	六〇九	九二	六四	四五三											
三坂	八一八	一一〇	三五	六七三											
永戸	七〇八	一〇一	一五	五九二											
好間	一五九四	二〇九	二三	一三二八	五一	一一二	四一九	一四	三六八	一二五	一九	四一	〇	一〇八	一九
內郷	三八六九	五七四	二〇七	三〇八八											
湯本	一六八七	二六〇	二七	一四〇〇											
磐崎	一五七五	二四六	三六	一二九三											
上遠野	八六七	八八	二五	七五三											
入遠野	八四八	九九	一〇	七三九											
田人	九一九	一二八	一二	七七九											
川部	六五一	六三	二二	五六六	二一	三八	二	三〇〇	〇	二	一八二	七	二	二	〇
勿來	一三七二	一五八	七四	一一四〇											
錦	六五九	六〇	三六	五六八	〇	五	三	三五〇	一	七	二〇〇	四	一三	〇	〇
山田	六三三	四〇	三六	五五七	〇	八	〇	二八二	〇	一	二六〇	〇	三	〇	〇
植田	九九六	四六	五〇	九〇〇	一	三	一	四三九	〇	二	四四三	〇	八	〇	〇
渡邊	四〇五	三三	四	三六八	一	四	六	一四四	〇	一七	一八九	三	二	〇	〇
泉	七四七	三九	一四	六八八											
玉川	四四五	二四	一三	四〇七											
小名濱	一四一七	二〇六	五八	一一五三											
合計	三五一〇〇	四二五八	一二二三	二九九五三											

選擧酒に醉ひ 坑夫の暴言 一ト晩拘留

內郷村白水川平浪花炭礦運炭鈴木雄記(四〇)は昨二十五日午後二時內郷村役場に至り縣會議員選擧に投票をなし歸途選擧酒に泥醉した雄記は同村駐在所に吐嗚り込み慘々暴言を吐いたので檢束され平署に一と晚拘留され懇々說諭の上今二十六日釋放された

平署管內の 警戒を解く 應援隊歸る

本郡縣議選擧戰も昨二十五日を以て修了したが去る十六日應援の爲菊地警部補に引率され來平せる小濱、阿久津雨部長以下本縣巡査教習所生十名は各町村の巡視をなし今廿六日午前十一時四十五分の汽車で一同歸省した

昨夜宵のうち 鎌田の小火 燈明の火から

平町鎌田町鈴木藤市方から二十五日午後六時十分頃發火し大事に至らんとする處を消し止めたが原因は佛壇の燈明から下損害僅少であつたと

秋晴れのきのう 投票場外の情景 三千七百を呑むだ平町 嚴肅の氣漲る

三千七百余の有權者を有する平町の投票は二十五日午前七時から平商業學校雨天體操場に於て行はれた、正面玄關前から土足の儘で止面の向つて左の入口から、竹のテスリで三ッに區劃された通路を機械的に潜ると其處には係官が數名張番しておごそかに名前やら番號を照らし合せてゐる、そこを進んでさらに右へ二曲りすると檢印濟みの入場劵と引換て投票用紙を渡して呉れる、記者の入場したときには午前八時半であつたが既に千人からの投票數をあげてゐた、二十五ケ所の記載所には

有權者が 一杯に詰かけて思ひ／＼に自分の理想とする候補者の氏名を認めてゐる後姿が何となくすくぐつたく目に映つて後方に控へてゐる町長始め各候補立會人十一名のお歷々が何れも襟を正し嚴然と構へてゐる處は法廷に現れた判官の如く場內は異樣の緊張味を漂はしてゐたが場內に並べられた數個の投票箱に依然として大きな沈默を守つてゐる情景は非常に蕭いて居る小な

人間の見 苦しさを嘲笑するもの丶如くその對照は如何にも皮肉に見えた、當けイの一番に投票の南町酒井國三郞醫師では定刻より遲るゝ十秒、七時十秒であつた、平町の總投票數三千七百中棄權二割を控除すると投票實數三千である、然るに正午までに既に二千五百の投票數を算したことはそこに平町民の選擧に關する理解が充分に讀まれた

當選者の平均は 二千五百票位 いよ／＼今夜深更に 各候補當落決す

石城縣議戰はいよ／＼運命を決し今二十六日午後十二時ころまでに全部の決定を見ることとなつたが郡下三萬五千の有權者が候補十一名の何れに多く

味方する か結果は明日の樂みとして一般有權者に於ける現在の空氣では死亡及び轉居の失格並に文書の權利行使不能を初め普選の重要さを餘りにも理解されてゐない遺憾な事實は炭鑛其他山間地の勞働者等に多く民衆政治が血と熱でかち得た普選の生みの惱みに全く無頓著でたゞ自分も權利者であると云ふ丈の無意義な氣分に滿足をなしてゐる者も少くない關係から約二割五分の棄權があり大體二萬六千の投票は安全と目される三候補に一萬餘殘る

一萬六千 の中精々二三百かと云はれる二候補に五百を除く一萬五千五百を當落の中間線に漂ふ六候補に割あてる平均點は二千五百强に當つてゐるので勝敗は同票數の獲得如何によるものと云はれてゐる

平商業校で 夜學校開始 入學希望要項

平商業補習學校では例年の通り十月三日より晝間修學の餘暇なき者に商業に要する智識技能を授くる事となつたが學科は修身、公民科國語、作文、算術、商業要項、簿記、英語にて翌年二月まで授業時間は毎夜三時間以內、尋小學卒業者又は之に準ずべき者が前期一年に高等卒業者又は之に準すべき者は後期一年に入學するを得、尋常小學校を卒業せざる者も特に入學を許可する筈で入學志望者は入學用願書を十月一日まで差出し授業料は一ヶ月參拾錢で學業成績を考査し修了證書若しくは卒業證書を授與する筈

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

平 館隣り
御料理 鰻蒲燒 仕出し
魚榮
電話四二四番

勞農黨の 選擧批判演說 今夜平劇場で

勞農黨では山代吉宗氏を縣議候補者に推し極力奮鬪して來たが今二十六日午後六時より平劇場に於て今回石城郡に於ける縣會議員選擧の批判演說會を開催すると

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負 其他
佐藤材木店
常磐線平町 新川町
電話 三三五番

釀造元
清 世界吉
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晉平
電話六番

秋冬帽子案內
子供帽子
鳥打帽子
中折帽子
御好品ヲ澤山取揃ヘマシタ。
海岸線平町四
ツルヤ商店
電一四〇

片濱自動車運轉
平、高久、豊間、江名
停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋
電話…二一七番
電話…一四二番
御三人以上はお迎ひに參上致します
平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木 片濱自動車商會

金牌一等賞受領 數回
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番
◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候